豚枝肉拭き取り検査を活用したと畜場衛生対策への取り組み

○　佐渡勇亮、森みどり
三重県食肉衛生検査所

１．はじめに

と畜場の衛生管理指標の一つに枝肉の一般生菌数がある。当所では複数年にわたり、豚枝肉拭き取り検査成績の活用方法について模索、実践し、それによる㈱三重県四日市畜産公社（以下、公社）職員への衛生意識への影響と直近３ヵ年の豚枝肉一般生菌数への影響を調査した。

２．材料および方法

拭き取り検査方法については、厚生労働省からの通知に基づいて行った。対象豚枝肉は検査当日のと畜頭数２００頭前後で連続５枝とした。拭き取り検査成績は（１）目標値を設定し、その達成状況と結果を速報という形で公社職員へ周知。（２）年１０回開催している公社衛生担当者との衛生対策会議に使用。（３）統計処理を施し、同時期の全国成績と比較。以上を主な活用方法とした。

３．成績

（１）速報により同一週内に結果を公社職員に通知することで、当日の様子を忘れる前に結果を通知できた。これは各公社職員の分担作業への自己分析にも有用であった。また、目標を設定することで作業に緊張感を持って望むことができるようになった。（２）衛生対策会議を開催し、その資料として活用することで、具体的な説明、議論を交えながら結果を互いに検証することができた。これは衛生担当者への衛生教育にも有用であった。（３）統計処理を施し、結果をグラフ化して同時期の全国成績と比較することでよりわかりやすこ自場のレベルを把握することができ、当所検査員、公社職員の衛生意識向上につながった。（４）当所の直近３ヵ年の豚枝肉拭き取り成績を全国成績を年度毎で比較したところ、成績にはそれほど差がなく、高い衛生レベルを維持できていた。また、１８年度の成績は他年度に比べ各枝肉におけるばらつきが小さい傾向にあった。

４．結論

毎月定期的に実施している枝肉拭き取り検査の成績を様々な方法で活用することにより、公社職員の衛生意識を向上させることができた。拭き取り成績は高いレベルで安定しており、また枝肉毎のばらつきも小さくなる傾向が見られることから、衛生対策はより安定、向上していると考えられる。今後は拭き取り成績の更なる活用方法の模索と公社自主検査に対する指導を通じての更なる衛生意識の普及、現場での即時判定法の導入を行い、現在と同様の衛生レベルの維持に努めたい。